

☆あったらいいなのサービス作り☆

認定特定非営利
活動法人

グループ
ゆう



ゆう通信

41号
2022年
3月発行

グループゆうの
ホームページが
リニューアルしました！

新しい URL : www.g-yuu.com

※令和3年度の自己評価表は、こちらのHPに掲載致します。

— 目次 —

評議員会報告／外部の風を取り入れる	P2
研修報告	P3~5
事業紹介／ワークスペース歩°歩°	P6~7
成人支援3回シリーズ 第1回『自立訓練(生活訓練)』	
焼き菓子の紹介／ワークスペース歩°歩° 森の小鳥	挟み込みチラシ
支援アイデア紹介／おてつだい・身辺自立編	P8~9
オススメ スポット／おでかけ編	P10
応援団／ティーチみやぎ代表 鈴木 久一郎先生	P11
スタッフリレー／第7走者:ワークスペース歩°歩° 岡部 柁俊	P11
インフォメーション／職員募集・賛助及びご寄付のお礼	P12

～ 外部の風を取り入れる ～ 評議員会報告

2021年10月23日に宮城県婦人会館を会場に、20年ぶりに評議員会を開きました。メンバーは、これまでグループゆうに関わってくださった方々で、当日はオンライン参加の方も含めて8名にご参加いただき、現状の事業説明の後、ご意見を頂きました。

グループゆうを内外から多角的に見た示唆に富んだご意見をいただき、直近の課題および今後向き合うべきテーマを再認識することができました。これから、見直しを予定している中期計画に反映させ、利用者や家族、地域の人たちから当てにされるサービス供給体に近づけていきたいと思えます。

□ 評議員紹介(あいうえお順)

池田 昌弘さん	NPO 法人全国コミュニティーサポートセンター代表
加藤 恵さん	仙台市サンホーム卒園児家族
後藤 咲子さん	仙台市サンホーム卒園児家族
齋藤 さち子さん	ピーターパンふくおか利用者家族
相馬 潤子さん	NPO 法人みやぎ発達障害サポートネット代表
高木 真理子さん	ピーターパンふくおか利用者家族
千田 真紀さん	仙台市サンホーム卒園児家族
中野 広光さん	ワークスペース歩°歩°利用者家族
波多野 卓司さん	経営コンサルティング 波多野事務所代表

評議員からの意見や提案事項

* 法人事業の直近の課題に対するご意見 *

- 「いろいろな事業があるが、それをどう連携させて、地域での暮らしをサポートしているのか解り難い。支援の全体像が分かるようなアウトプットの仕方を工夫してはどうか」
- 「他者にアドバイスを求める項目のリスト作り」
- 「出来高事業+αの検討」
- 「外部理事の登用」
- 「商品開発への専門的視点」
- 「経営に関する専門家からの支援」

* 社会的課題へのご意見・ご要望 *

- 「短期入所事業の少なさ」
- 「発達支援における児童発達支援事業の、行政の位置づけ・眼差し」
- 「親亡き後も継続する、安心サポートの仕組み」
- 「制度で支援が保障されていないことにも対応する相談窓口の整備」(障害者手帳を取得していない人・家族自身の事・兄弟姉妹の事等)

研修報告

2021年度はコロナ禍の為、オンラインも取り入れて行いました。「自閉症の基礎研修」「虐待研修」「ハラスメント研修」の他「引きこもり支援研修」「アスム自主研修」について受講職員の研修報告から抜粋して報告します。各々の報告は大変興味深いものがあり、研修後に小グループで語り合う機会を設けることも有意義ではないかと思いました。

4月~7月：自閉症 e サービス基礎研修

「自閉症の特性理解」「評価から支援へ」
 「構造化のアイデア」「コミュニケーション」
 「問題行動の理解と対応」 全5回（参加者20人）
 講師：横浜東部地域療育センター 安倍陽子氏
 静岡県東部発達障害者支援センターアスタ 中村公昭氏 他

9月18日：新型コロナウイルス研修

講師：サンホーム看護師 砂金久美子

9月18日：障害者虐待防止法

講師：宮城県障害者権利擁護センター・
 障害者差別相談センター所長 鈴木みゆき氏

11月27日：ハラスメント研修の感想

改めて知ったこと、考えたこと

- ・ハラスメントの種類の多さ。
- ・ハラスメントの本質は支配とコントロールだということ。
- ・リーダーシップを発揮することは、各々が主体性を発揮すること。という考え方。
- ・リーダーだけがリーダーシップを発揮しなければならないと捕えがちだが皆が主体的に動くことで各々がリーダーになれるということを知った。
- ・アイコンシャスバイヤスについて。

ハラスメントを感じた経験

- ・会議の終了時間に配慮せずに予定よりも大幅に超過した時。
- ・強い物言いや「イエス」を前提にした研修等への参加打診をされ、『NO』と言えない雰囲気を作られてしまうとき。
- ・ワクチンを受けることが当たり前という雰囲気への不安。
- ・仕事において「〇〇だから・・・」（年齢・職歴・性別等）と言われることがあるとモヤモヤする。
- ・職業による労働対価に格差を感じたとき。
- ・医療従事者とのやりとりで「いやだなー」と感ずることが多い。
- ・制度の枠に入る事が「なすべきこと」と思わせられていることは、国による事業者コントロールだと思った。「なすべきこと」と「必要なこと」を考え続けられるNPOでいたい。

講師：エル・ソーラ仙台相談支援課 行場麻衣子氏

今後自分自身を取り入れたいこと

- ・無意識の言動が相手に不快な思いや傷つけてしまっているかもしれないので、相手の気持ちを考えて行動したい。
- ・「ふつう」という考えを疑ってみる。
- ・アイコンシャスバイヤスから完全に逃れることは出来ないと思うが、相手の立場を想像して誤解を生まない表現方法に配慮したい。
- ・ハラスメントのツテが少しでも反応したら、気付かぬふりをせず「行動」したい。
- ・ハラスメントだと感じたときの行動の在り方を学びたい。

事業に活かしたいこと

- ・多様なリーダーシップの話聞き、各々の強みを活かして適材適所で働けるようになれば良いと思った。
- ・主体性を引き出していく事について学びたい。
- ・「安心できて」「何を話しても否定されない」「互いを認め合う」職場環境づくり。
- ・ケースカンファレンスの際に「思い込み」をなくし事実を検証できるように努めたい。
- ・“互いの良いところ探し”のワークショップを取り入れたい。

※参加者のアンケート回答より
 (2人以上の人が言及している事項を抽出)

ひきこもりの理解促進と支援力向上のための研修会から得たもの

主催：全国ひきこもり家族連合会

基礎編 1月10日「家族支援の基本的理解」講師：臨床心理士 竹中哲夫氏

「本人支援の基本的理解」講師：精神科医師 加藤隆弘氏

「ひきこもり支援における当事者活動への理解」家族会・居場所・ピア活動

講師：長岡崇徳大学看護学部 齋藤まさ子氏

実践編 2月17日 20日 23日 27日

家族支援 講師：宮崎大学教育学部 境 泉洋氏／社会福祉士 深谷守貞氏

本人支援 講師：精神科医師 山崎正雄氏、加藤隆弘氏／臨床心理士 竹中哲夫氏

北区社会福祉協議会 安藤豊氏／社会福祉士 深谷守貞氏

地域づくり 講師：認定社会福祉士・精神保健福祉士 中井俊雄氏

保健学博士 ライフサイエンス臨床看護学 齋藤まさ子氏

多様な状況における支援 講師 認定社会福祉士・精神保健福祉士 中井俊雄氏

(一般社団) コソフィデ ソ理事長(移行・B) 佐藤恵子氏

地域活動推進センター「ほっとスペース歩°歩°」管理者 佐藤裕信

「8050 問題（80 代の親が 50 代の引きこもりの子どもの世話をする家族）」と言われている通り、社会的な喫緊の課題でもあります。全国で約 120 万以上の方が引きこもらざるを得なくて、その内、40 歳以上の中高年の方が、約 64 万人と半数を超えています。

グループゆうの地域活動推進センターには、不登校や引きこもりを経験した自閉症スペクトラム症の方が多く通所していることから、数年前からこのテーマの研修をうけてきました。今回、地域活動推進センターでの経験も含め、「ひきこもり」への私見をまとめました。

1 次 2 次産業の「物作り」であれば、人との関係作りが上手くなくても、仲間に引き入れる力が、リーダーの方にはありました。人付き合いは悪くても、これができるとか、この部分は役に立つと感じ、仲間としての求心力を発揮して、社会の輪を構成していたのです。

しかし、対人交渉力やコミュニケーション力が前面に出る情報化社会では、人との関係作りから、あぶれざるを得ない人たちが出てきます。人それぞれの物の捉え方や感じ方、伝え方の違いを理解し合って関係性を作る作業よりも、直ぐにやり取りが生まれ暗黙の了解の下で物事が進む現代では、このような手間暇を掛けた作業は、似合わないのでしょうか。

つまり、「ひきこもり」の方たちは、この情報化社会から、はじき出された人たちです。私たちも、いつ、はじき出されてもおかしくありません。この方たちの中には、グループゆうが取り組んでいる自閉スペクトラム症（ASD）の方も多くいます。社会性や相互の対人交流に特性のある ASD の方には、不登校の方も多く、学校を卒業後、一旦は就職するが定着できずに、引きこもるからです。

引きこもりは、「退行（赤ちゃん返り）」の一つで、自己防衛のための手段で、育ち直しには欠かせません。ジャンプするには、一旦、屈んで、身を小さくしますから。しかし、ご家族の理解や「安全感」の保障がなければ、しっかり「退行」出来ず、心が荒れて、身動きが取れず、心的エネルギーが補充されません。この生き方を、包み込む家族や相談側の理解が大前提です。働けない、我慢できない、話を聞かないといった周りの偏見がある限り、ご本人は棘の洋服を身に付けるしかないのです。

家族の支援が絶対です。家族に暖かく包まれると、心的エネルギーが満たされ、心の窓を少し開けてくれます、ご家族もご本人も。

「ひきこもり」は、ご家族やご本人の、出口のない堂々巡りの、暗く重苦しい世界で、外との壁を厚くし、孤立している世界です。関わる支援者は、この渦中に飛び込むのですが、そこで身に付けないといけない力が、ネガティブ・ケイパビリティという見方です。出口が見えないトンネルに、出口を作るのですが、正解はありません。正解のない世界に耐えうる力がネガティブ・ケイパビリティ（精神分析ピオン）で、研修でも少し触られました。この力がキーワードですので、ぜひ、心に留めて置きたいと思います。

アスム地域支援センター心理臨床を学ぶ会参加の報告

ピーターパンふくおか管理者 浅野弘絵

今回の研修はティーチみやぎの鈴木久一郎先生からお声がけいただき、アスムの職員の方々の自主勉強会に加えて頂き、勉強をさせていただいています。毎月1回、柴田町槻木にある(社)アスム地域支援センターにて【定型の乳幼児期の発達理論を学ぶことによって、自閉症の子どもの発達の真実に迫る】をテーマにテキストを使いながら学びを深めています。

今は『母子関係の出発 D スターン著、岡村佳子訳』の本を読み解きながら、自閉症の子どもの発達について事例などを出し合い、お互いの考えや学びについて発表しています。自分の考えや経験について他機関の経験豊かな方々から様々な視点からの意見を聞くことのできるとても貴重な場になっています。

また、本の内容だけでなく、最近の臨床医学や相談現場での傾向などについても教えていただく事があり、私にとって新しい発見ができたり、今行っている療育や関わりについての気づきがあったりします。この学びを他職員とも共有し、今後の療育活動や人材育成に生かしていきたいと思えます。



『母子関係の出発』
D スターン著
岡村佳子訳

第1回 自立訓練

事業紹介：ワークスペース歩°歩°

グループゆうは 2006 年に自閉症スペクトラム症の成人の自宅以外の地域の居場所「ほっと馴染めなかつたり、職場での定着が困難だつたりで、不登校や退職の経験を重ね、苦しい思いでもいち早く支援に着手し、アーチルでの支援の後、民間の支援を広げる為に補助制度を用意への意欲が芽生えてきたことから 2008 年に「就労移行支援事業所」をスタートし、2011 年に「援B型」「自立訓練(生活訓練)」の2つの事業を行っています。

自立訓練(生活訓練)とは？

地域生活を営む上で、生活能力の維持・向上等の為、一定の支援が必要な知的障がい・発達障がい・精神障がいのある方に対して一定期間(2年間)において日常生活能力を向上する為の支援や、日常生活上の相談支援等を行います。

ワークスペース歩°歩°の自立訓練は

「自立訓練(生活訓練)」と聞くと親元を離れての一人暮らしに向けて家事等の日常生活能力の訓練をイメージしますが、ワークスペース歩°歩°の自立訓練は、日常生活能力の訓練等を通じて「自分を知り」「人との関り」を作っていく事を重視した支援を行う事に特徴があります。

生活をしていく上で、必ず必要となる「人との関り」に重きを置きながら、自分の意志の伝え方や相手との折り合いのつけ方、安心して過ごせる環境整備、お一人で出来そうな事、他人の協力が必要な事、利用できそうな社会資源などをワークスペース歩°歩°での活動を通して一緒に確認させて頂き、次のステップに向けて、利用できそうな社会資源や安心して暮らせる環境等を整備するサポートをするのがワークスペース歩°歩°の自立訓練(生活訓練)です。

自立した生活スキル獲得の一步手前のサービスではなく、障害にわたって安心して暮らせる生活に向けて「自分を知り、人と関わる」第一歩が自立訓練(生活訓練)と考え、将来に向けた土台作りを一緒に行わせて頂いております。

★一般的なイメージ(自立した生活に向け訓練)

自立訓練

- ・自立した生活向け
- ・家事等の日常生活力の訓練
- ・スキルの獲得・向上

自立した生活

★ワークスペース歩°歩°のイメージ(安心して暮らせる生活に向けた土台作り)

歩°歩°の自立訓練

「自分を知る」「人と関る」を育む

- ・個々のアセスメント
- ・個々が「自分を知る」「人と関る」為のプログラムを考え、日常生活プログラムを通して実施
- ・個々と「その人が安心して暮らせる生活」を話し合い、必要な環境整備のサポート

生涯にわたり安心して暮らせる生活

【生活環境】

- ・グループホーム
- ・一人暮らし
- ・ご自宅での生活等

【働く環境】

- ・一般企業
- ・就労継続支援A型
- ・就労継続支援B型等

【社会資源】

- ・移動支援
- ・家事支援
- ・病院等

「自分を知る」「人と関る」に重きをおいた
安心して暮らせる生活の土台作り

成人支援を今号から3回シリーズでお届け致します

41号 自立訓練、42号 就労継続支援B型、43号 地域生活支援



ワークスペース歩°歩°」を開きました。当時、自閉症スペクトラム症は制度支援の対象外で、社会にしているのにも拘らず、公的な制度支援は用意されていなかったのです。仙台市は全国し、中うも手を挙げました。その後、ほっとワークスペース歩°歩°に通所する方の中から、就労「就労継続支援B型事業」、2016年に「自立訓練(生活訓練)事業」を始め、現在は「就労継続支援ワークスペース歩°歩°」管理者 高橋辰徳

ワークスペース歩°歩°のとあるプログラム(昼食作り)



10:00 朝の挨拶
10:10 買い物の打ち合わせ(買ってくる材料、予算、お店の打ち合わせ)



11:00 調理開始



◎昼食作りのポイント◎

昼食作りは、調理道具を安全に使用して、きれいなおいしい物を作るという事が最終的な目標ではありません。皆で食べたい物の意見を出し合い、相手の意見を受け入れたり、相手にどう伝えたら自分の希望が伝わるか考えたり、作る方が他の方に食べるかどうかの確認をする等、周りの方とコミュニケーションを取り、みんなの為に作るという役割を担って頂きます。

また、自分が皆の為にした事で皆に喜んで貰えたという経験を積み重ねて頂く事で、人と関わるって楽しいな、良いことだなと感じて頂けるきっかけになればという目標で昼食作りのプログラムを取り入れています。

ワークスペース歩°歩°のQ&A

Q

ワークスペース歩°歩°に入る前にこんな事が出来ていたら良いという事はありますか？

A

ありません。ワークスペース歩°歩°でのプログラムを通して、自分の意思を伝える事、一人で出来る事を少しずつ増やしていくのが目標です。

ただ、ご自宅までの送迎は現在行っておりませんので、ご自身かご家族様の送迎でワークスペース歩°歩°まで来て頂く事が必要となります。(北仙台駅からの送迎をしています)

Q

ワークスペース歩°歩°ではどのようなプログラムを行うのですか？

A

ワークスペース歩°歩°でのプログラムは「これをやります！」というのは特にありません。お一人お一人目標が異なるので、その方に必要なプログラムをご本人様、ご家族様と一緒に考えています。

ただ「人との関り」に関しては、生活をしていく上でどうしても必要な事なので、どのプログラムにおいても練習が出来るように取り入れています。

例)

Aさん: 公共交通機関の使い方

Bさん: 買い物の練習

Cさん: 携帯電話の使い方の練習

Dさん: 友達との過ごし方

Eさん: 仕事に向けた報・連・相の練習

Fさん: 生活リズムを整える 等

支 援 アイデア 紹 介

おてつだい・身辺自立編

今回はお手伝いと身辺自立についてご紹介します。

お手伝いや身辺自立に取り組む時は、事前の検討・準備がとても大切になります。思い付きやこちらがやってほしいものだけを選択するとなかなかうまくいきません。ご本人に合った内容で、達成感や充実感を得られる活動を準備する必要があります。どのように進めていけばよいのか一緒に考えてみましょう♪

ピーターパンふくおか管理者 浅野弘絵

【お手伝いや身辺自立を始める前に…】

○まずはご本人の特性や発達段階、興味関心について知りましょう！
アセスメントをする具体的なポイントは…

- ✓ **取り組む内容が高すぎるハードルになっていないか**
(少し練習すれば達成できそうか)
- ✓ **発達レベルに合っているか**
- ✓ **お互いに頑張りすぎなくても続けていけるか**
- ✓ **直接の援助や見守りがなくても1人でできるようになりそうか**
(自立できるところと援助するところの整理ができているか)
- ✓ **ご本人が納得しているか、やりたがっているか**

※ご家族だけでアセスメントを取ることが難しい時は支援者に相談してみましよう。

Point 1

○短時間でもいいので、ゆっくり焦らずに取り組める時間を取ってあげましよう

忙しい時間帯に始めると教えるほうも、取り組むほうもストレスになってしまいがちです。

お互いに時間と心に余裕がある時に始めることが大切です！



洗濯たたみボード

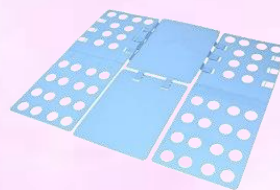


お手伝い・身辺自立の一例としてピーターパンふくおかで使っている洋服たたみボードをご紹介します。ピーターパンではご本人の特性や発達段階、興味関心を見ながらお手伝い活動や身辺自立に活用しています。このボードを使うと、綺麗にたたむことが苦手な方も分かりやすく上手にたたむことができます！

たたむことが苦手であればハンガーにかける等の代替手段はたくさんありますので、たたむことにだけこだわる必要はありませんが、このようなツールを使っている方もいらっしやるという参考になれば幸いです。

道具選びのポイント

◆まずは本人が着るサイズがたためるくらい小さなお子さんが大人用を扱うのは大変です。合わせて扱いやすい道具の大きさを決める



▲大人用
Amazon、楽天、yahoo ショッピング等

▼子供用
道具で発達を応援「トビラコ」
<https://tobiraco.co.jp/>



保護者の方々や関係機関の皆様から『普段、事業所で取り組んでいる活動を家庭でもやってみたい』『家庭でも取り入れやすい支援のアイデアを知りたい!』というお声をいただき、ゆう通信のニューコーナーができました! 事業所で実際に使っている支援グッズやアイデアを取り入れるポイントとともに分かりやすくお伝えしていきます。

今回は【お手伝いの意味とごほうびの具体的なアイデア】について紹介予定です!

Point 2

○取り組みやすい場所を確保しましょう

周りに気になるものが置きっぱなし、テレビがつきっぱなしなど、集中しにくい環境ではうまくいかないことがあります。落ち着いてできる場所がどこか、道具が扱いやすい広さがあるかなどを意識して場所を考えてみましょう!



Point 4

○助けを求められるような手立てを考えましょう

日によってご本人の状態が違ったり、場所や相手が変わるとできなくなってしまうということがよくあります。自分が困ったときに助けを求めるとすることも立派な自立です。発話があっても、なくても相手に助けを求めるとしてどんな配慮やツールがあるといいか、事前に考え、準備しておきましょう。

Point 3

○報酬(ごほうび)を準備しましょう

自分の洋服をたたむ身辺自立として行う場合は自分のために行うので必要ありませんが、お手伝いとして家族の分もたたむなど自分以外の人のためにやる仕事には報酬が必要です。

お手伝いやお仕事は「がんばったらいいことがある」が鉄則です! ご褒美にもお小遣い、シールをためる、お菓子をもらう、好きな遊びをする…など色々な種類がありますので、ご本人に合ったごほうびを見つけてみましょう。

Point 5

○具体的な目標(ゴール)決めましょう

何をどこまで1人でできるようになったらゴールなのかは人によって異なります。ここで大切なのはあくまでも「今の発達段階ではどこまでできたらOKにするのか」ということです。発達のスピードは人それぞれですので、〇歳だからできるようにならなければならないということではないのです。今は目標にはしないけれど、成長を見ながら時期がきたらやってみようでもいいのです。大きな目標よりも、スモールステップでお互いに無理のないゴールを決めましょう。

使うときのポイント

の大きさを選ぶといいでしょう。ので、ご本人の身体のサイズ感にすることが大切です!



▲洋服たたみボードは段ボールで手作することもできます♪「洋服たたみボード作り方」でネット検索すると、作り方が詳しく解説されています。

洋服たたみボード 作り方 検索



◆初めにボードの上にきれいに広げられるかどうかで、最後の出来栄が変わってきます。上手く広げられないときは最初だけ手助けしてあげましょう。



◆ズボンのほうが広げやすいので練習にはおすすめ!





利用者(家族)さんが実際に行ってみて、居心地が良かった、設備が充実していた、スタッフが優しかった、合理的配慮が感じられた等々、皆さんにオススメしたい場所を紹介する新企画です。こんな場所を教えてくださいというリクエストもぜひお寄せ下さい。

おでかけ編

今回はピーターパンふくおか利用の齋藤真瑠さん(17)のお母様であるさち子さんから休日のお出かけにおすすめのスポットをご紹介いただきました。
是非コロナ禍のおでかけの参考にしてみてください♪



真瑠さんの最近のお気に入りおでかけスポットはどこですか？

荒浜です。津波で流された家などの看板があり、散歩コースになっています。この間、ゆっくり散歩できて最高でした！真瑠は休日にお出かけを必ずしたいタイプなのですが、人混みは苦手で、ゆっくりマイペースに過ごせる場所がないと行けないのでとてもよかったです。



震災遺構
仙台市荒浜地区住宅基礎
〒984-0033
仙台市若林区荒浜中丁 26
<https://g.co/kgs/Zxpmej>



荒浜にはお散歩コース以外でも楽しめる場所がありましたか？

すぐ近くに“JR フルーツパーク仙台あらはま”があり、真さんとアイスを食べました。母はいちごソフトで、真さんはミルクソフトです♪





“JR フルーツパーク仙台あらはま”はどんなところですか？

いちご狩りもできるようですので、いちごが好きなお友達におすすめです！直売所では箱にいっぱい1,000 円のいちご（品種：にこにこベリー）が限定で売っていて、いつも朝イチで完売するとスタッフさんが話していました。私もお土産に買っていったら、おじいちゃん、おばあちゃん、弟は喜んでいました～♪



 JRフルーツパーク
仙台あらはま
仙台市若林区荒浜新2丁目 17-1
022-390-0770
<https://stbl-fruit-farm.jp>

-  無料駐車場有り
-  バリアフリートイレ有り

※営業時間やフルーツ狩りの詳細はHPまたはお電話でご確認ください。



写真：JR フルーツパークあらはま
HP・Instagram より

グループゆうの

応援団

鈴木 久一郎先生 「ティーチみやぎ」代表

鈴木先生は、主にピーターパンの職員研修でお世話になっています。

コロナ禍以前は月 1~2 回程度常勤・非常勤職員とが、事例を通して研修を受け、対象児の状態像の理解や職員対応の工夫等にアドバイスをいただきました。

その研修からは、先生から学ぶことがもう一つあります。それはどんな職員にも対等に接し、意見を否定することなく、職員の少しの成長も拾い上げて認めて下さる先生の姿勢です。

研修の後に皆“おだやかな気持ち”になって、“また頑張ろう”と思えるエネルギーを頂いています。支援者として身につけたい一番大切なことだと思います。

どうぞこれからも宜しくお願い致します。

(なかむら)

鈴木先生の活動の一翼

自閉症スペクトラム 無料相談

日時：毎週月曜日 9:30~18:30
(相談時間 1 時間、要予約)

場所：ティーチみやぎ
仙台市青葉区小松島新堤4-18
J-Power II の101

対象：保護者、祖父母、兄弟、本人、保育士療育者、教員、放デイ職員、サピ管、児発管、管理者、相談員等

備考：①お一人おひとり丁寧に対応します。
②個人情報厳格に守ります。
③可能な限りコロナ対策をします。

連絡先：TEL：080-2825-8847

FAX：022-273-3973

e-mail：suzukiauti@gmail.com



スタッフリレー

職員が職員にバトンを渡し質問したり、仕事以外の自由記述から普段は見えない素顔を紹介するコーナーです。第6走者「田部愛貴さん」から第7走者「岡部 柁俊さん」へバトンが渡されました。

●第7走者：岡部 柁俊

- 所属：ワークスペース歩歩
- 勤続年数：4年
- 出身地：福島県



岡部さん教えて！ ※田部愛貴さんからの質問です

- グループゆうに入ったきっかけ：大学の恩師からの紹介で福祉という未知の世界に飛び込みました。
- 最近のマイブーム：サウナと岩盤浴で汗を流す
- 休日は何してる？：寝てたり、ゲームしたり、サウナにいたりしてますね！
- 宝くじ1000万円当たったら：もちろん両親と仙台の母に還元したい！
- 10年前の自分に一言：平成が終わるの意外と早いよ。

自由記述欄

自分の好きな物を書くので、共感してもらえたら嬉しいです。

◆好きなマンガ◆

- ・ワンピース
- ・弱虫ペダル
- ・アオアシ



◆好きなラーメン◆

- ・えび助
- ・千極煮干
- ・横横家



◆趣味◆

- ・スノーボード



- ・ゲーム

APEX
モンスターハンター

- ・サウナ

サンピアの湯
竜泉寺の湯
汗蒸幕の湯



読んだ方でオススメのマンガやゲーム、ラーメン屋さん等、教えてもらえたら嬉しいです！まだまだ未熟者ですが、これからもよろしくお願ひします！

第7走者 岡部 柁俊さんから、ピーターパン長命ヶ丘の菅野佳奈美さんにバトンが渡されます。次号もお楽しみに！

職員募集

放課後等デイサービス・児童発達支援

常勤 1名：保育士、児童指導員、社会福祉士等

非常勤 3名：保育士、児童指導員、社会福祉士等

就労継続 B 型・自立訓練(生活訓練)

常勤 1名：社会福祉士、精神保健福祉士等

介護・助け合い・居宅

ヘルパー若干名：ヘルパー1・2級、介護福祉士
初任者・実務研修修了者等

計画相談員

常勤 1名：相談初任者研修終了者(現任研修修了尚可)
(非常勤も要相談)

連絡先：022-376-7665(中村)

グループゆうの活動への賛助及びご寄付 (R3年9月~R4年2月)

(※敬称は略させていただきます)

あかねグループ、浅野和子、アフタースクールぱるけ、阿部薫・大河、阿部真理子、池田敏彦、石山利代、磯田満晴、大澤敏江、岡田勝、小田聡、小野松聡子、上岡康子、川北信子、木村明枝、栗田政利・圭介、近藤満、齋藤真瑠、笹岡靖子、佐々木節子、佐々木千栄子、佐藤美沙、澤里幸一、澤里森子、澤里優美、澤里友紀、清水八千代、菅原知子、菅原美幸、滝田誠、谷美輝、ティーチみやぎ、永原敏男、中村義光、濱谷幸子、丸登志子、三上昌幾、門馬伸至、若生三枝子、和田栄子、渡邊昇、渡邊清乙、渡辺令子、匿名1名

ご支援ご協力ありがとうございました！

ご寄付は、今期は新型コロナウイルス感染予防のために使わせていただきます

賛助会員会費とサポーター寄付の振込み方法

挟み込みの振込み用紙にてお振込みください。郵便局の窓口・ATM どちらからでも可能です。もしくは、下記の振込先へ、お振込みください。

■賛助会員会費：個人…一口3000円/団体・法人…一口10,000円 ■サポーター寄付：一口3000円

ゆうちょ銀行
から振込み

銀行：ゆうちょ銀行 名義：グループゆう
記号：02270-3 番号：42421

他の金融機関
から振込み

銀行：ゆうちょ銀行 名義：グループゆう
店名：二二九 店 店番：229
預金種目：当座預金 口座番号：0042421

●寄付金控除に必要な領収書を送付いたしますので、お手数ですがお電話にてご連絡先をお知らせください●

編集後記

思いや考えが自由
に受発信できる
幸せを世界中で享
受出来ることを願
います。 **N**

新しいコーナー
ができましたので、
皆さまに楽しんで
いただくと嬉しいで
す。 **A**

今回のゆう通信
の内容が皆様のご
家庭や職場での話
題の1つになれば
嬉しいです。 **K**

花粉症ではない
私は春が一番好き
な季節。皆さんに
とっても心躍る春と
なりますように。 **T**

発行：認定 NPO 法人 **グループゆう**
〒981-3212 仙台市泉区南中山 2-2-3
TEL/FAX:022-376-7679